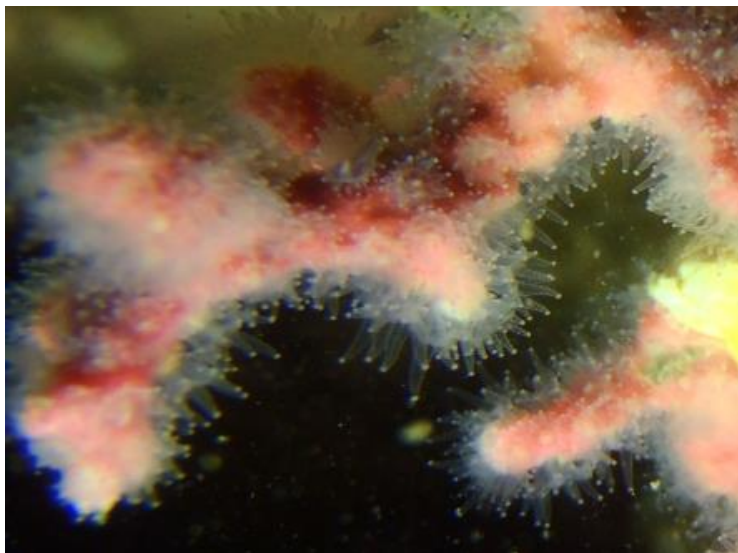
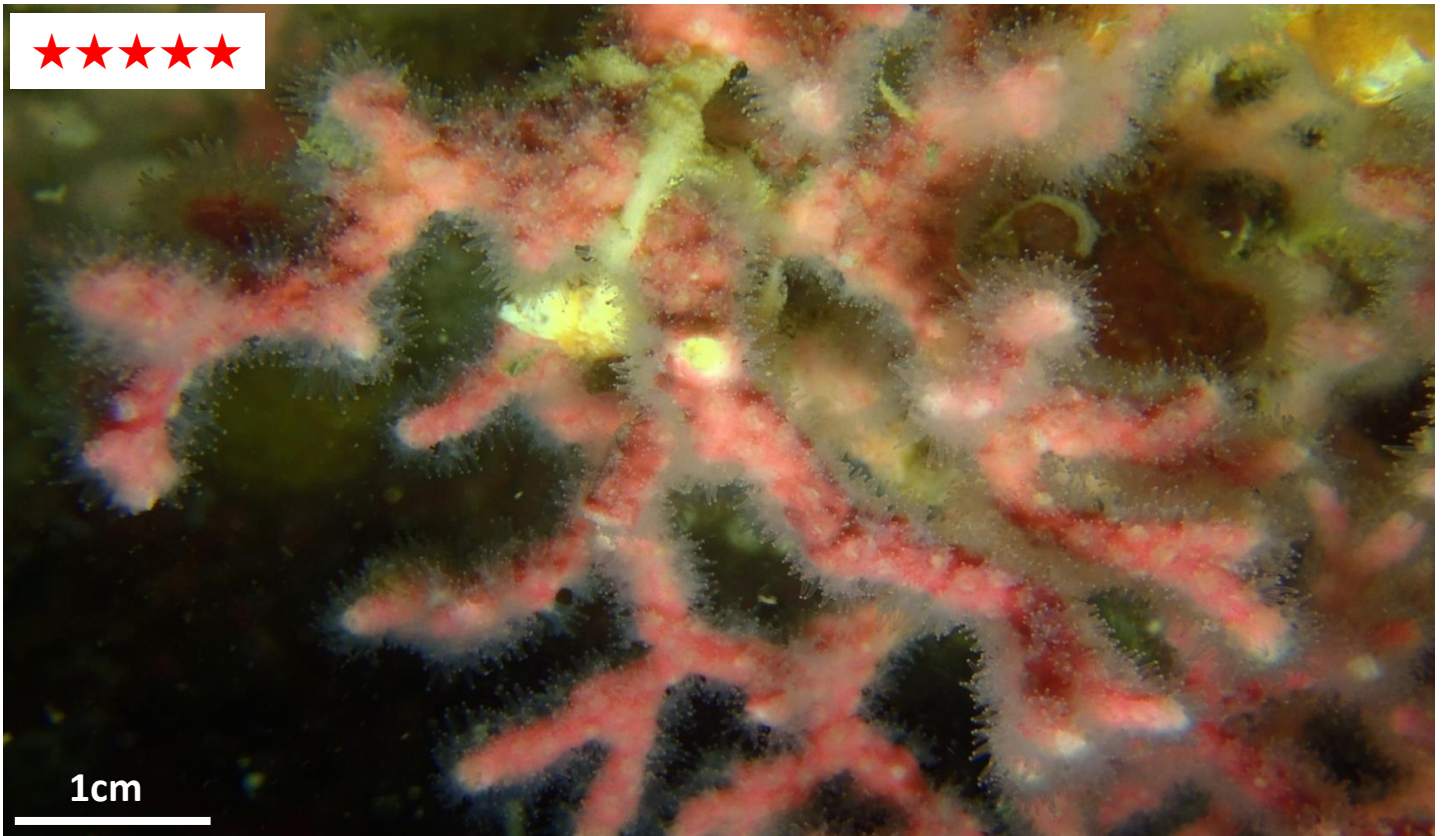


アサノエダサンゴ *Madracis asanoi*



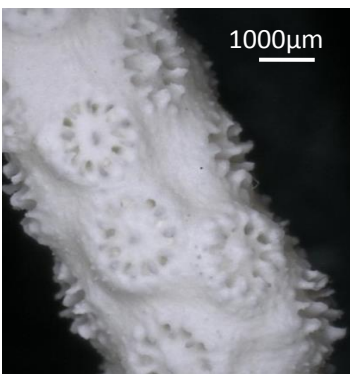
生きているときの特徴

樹枝状の群体であり、枝はねじれた様子である。生息は岩壁の窪んだ部分に生息することが多いため、気づかないことが多い。昼間でもポリプを開いているのが見られる。また、触手は透き通って見える。

- ・色は全体を通して均一で、ピンク、白、黄色が存在する。
- ・採取場所は水深15m～20m。

ここに注目！

枝はねじれた様子で、枝の太さは3mm～5mm。ポリプは昼間でも伸びていることがある。



骨格の特徴

サンゴ個体の最大径は2mm程度で、形状は円形～楕円形である。莖は枝の表面から盛り上がり、莖壁と隔壁が交わる部分で、小さな突起が形成される。サンゴ個体の中心部にも小さな突起が存在する。隔壁は全体を通して均一であり、中心部でゆうごうしている。

ヤスリサンゴ *Coscinaraea columna*



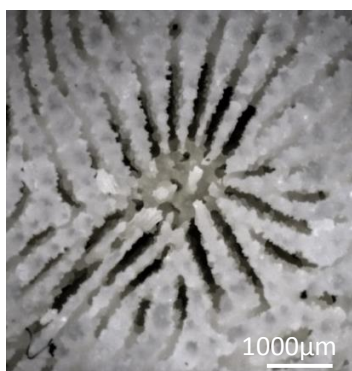
生きているときの特徴

被覆状の群体。ポリプは不規則にならび、複数の個体が連続し、長い谷を形成することがある。ポリプの上部にトゲ状の短い触手が莢壁に沿って一列に並ぶ。複数のサンゴ個体が連続していても、口盤は個々で独立している。

- ・全体的に赤褐色～小豆色になる。
- ・生息場所は水深5m～15m。

ここに注目！

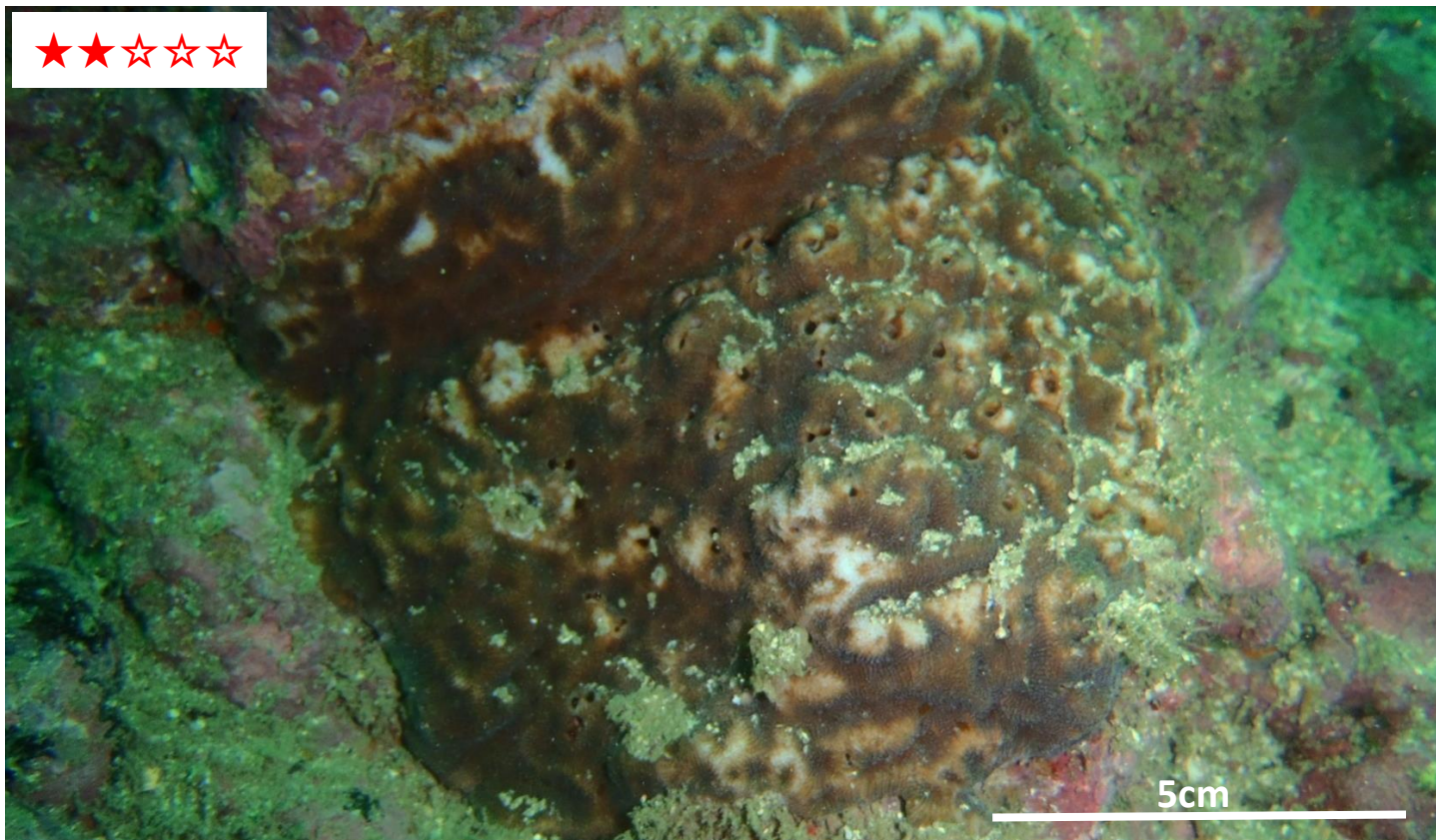
莢の上部にトゲ状の短い触手が一列に並ぶ。
口盤は個々で独立している。



骨格の特徴

サンゴ個体の形状は丸みを帯びた形状になる。サンゴ個体は5mm前後。サンゴ個体は不規則に散在している。サンゴ個体は個々の独立が明瞭に確認できるが、莢壁が不明瞭で、隔壁と肋が結合している。そのため、隣接する個体間に2～3mm程度の峰ができる。ほとんどの隔壁は軸柱付近まで発達する。軸柱は短い棒状である。また、莢の中心は円形の窪みが形成される。

ノマヤスリサンゴ *Coscinaraea monile*



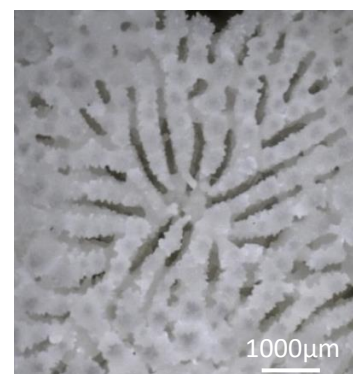
生きているときの特徴

被覆状および準塊状の群体。不規則に複数のポリプが連続している。ポリプの組織はヤスリのようなザラザラした表面に見える。隔壁の組織は小さな粒が綺麗に配列している。群体表面はなめらかである。

- ・全体的に褐色になり、部分的に白くなる。
- ・生息場所は水深5m～15m。

ここに注目！

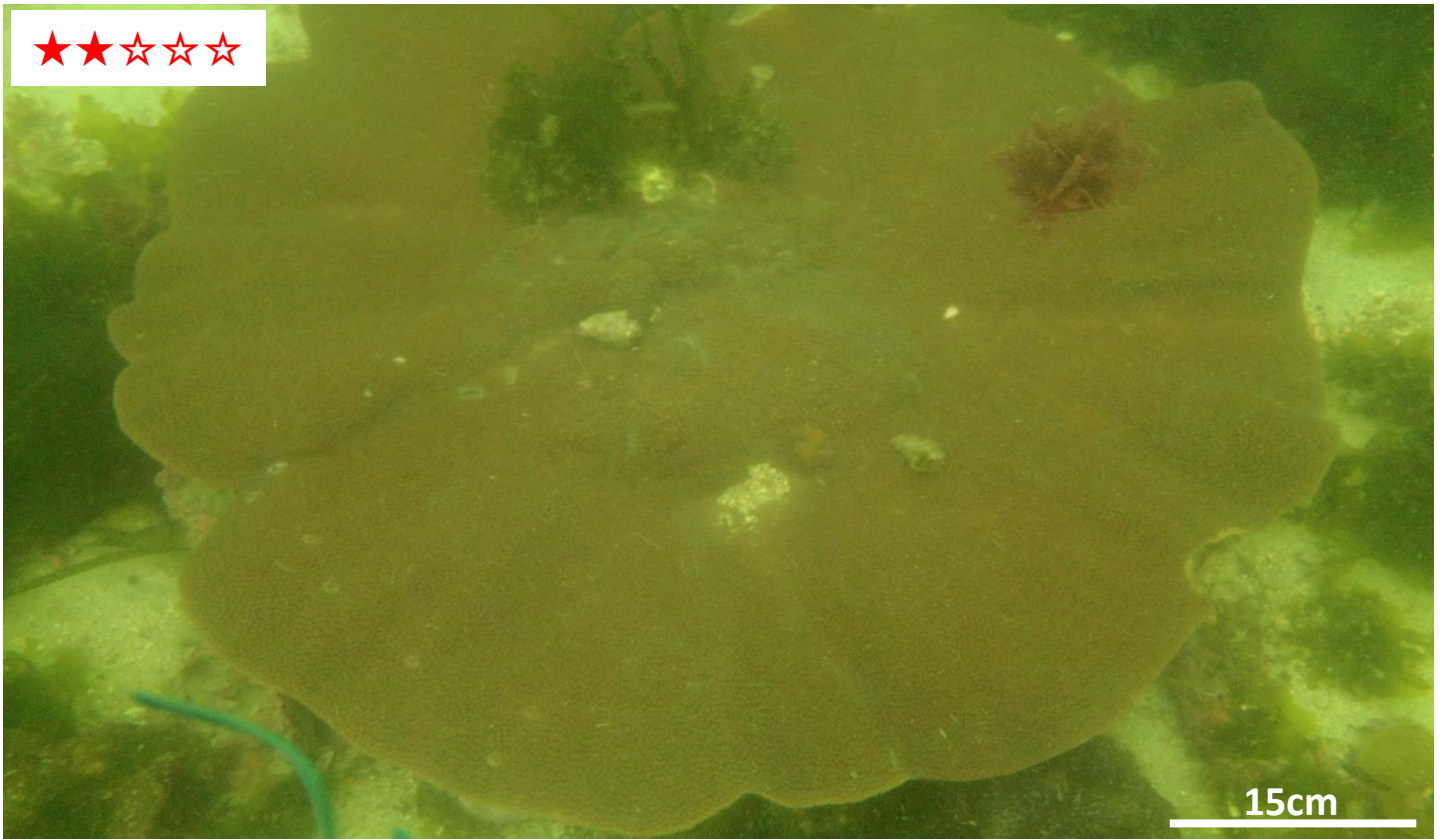
ポリプどうしの境界が不明瞭であり、複数のポリプが連続している。



骨格の特徴

サンゴ個体の形状は丸みを帯びた形状になる。サンゴ個体は5mm前後。骨格ではサンゴ個体は明瞭に確認できるが、隔壁と肋が結合している。隔壁の厚さや長さはどれも同じであり、ほとんどが軸付近柱まで伸びる。軸柱が発達することはあまりない。見た目は同属の *Coscinaraea columna* に似ているが、サンゴ個体の配列が比較的きれいに並んでいる。

ウネスリバチサンゴ *Turbinaria frondens*



生きているときの特徴

テーブル状の群体であるが、サンゴ個体は海面に対する面にしか存在しない。中央は凹んでおり、周縁部につれてうねりが見られる。群体の形状が様々である。

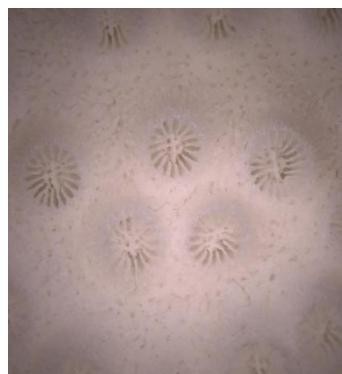
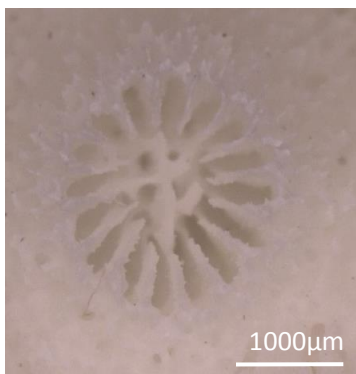
- ・色は全体を通して均一な茶色。
- ・生息場所は水深10m～15m。

ここに注目！

サンゴ個体の向きは周縁部に向かって群体に沿うように伸びている。

骨格の特徴

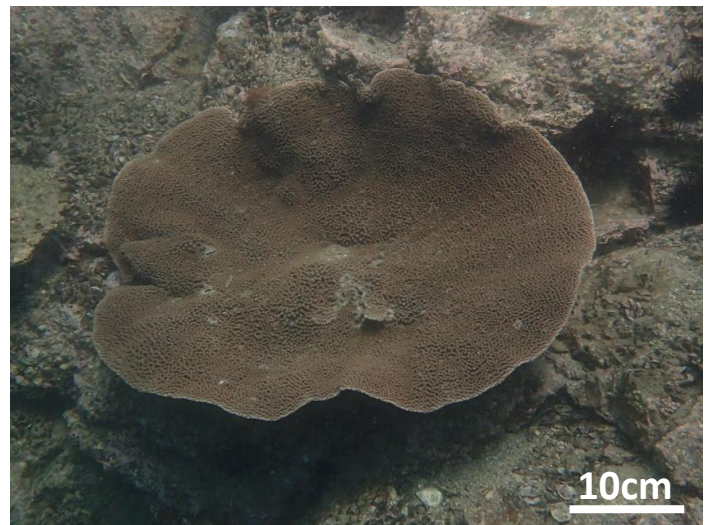
サンゴ個体は円形になるものが多く、楕円形になるものもある。サンゴ個体は不規則な配列であるが、隣接する個体間の間隔はほぼ均等である。隔壁の次数による大きさの変化は少ない。軸柱は複数のパリが直線的に集まり、板状を形成する。



ウネスリバチサンゴのバリエーション



↑
群体型は*Turbinaria reniformis* に似ているが、サンゴ個体が比較的高く突出しており、サンゴ個体が丘状に盛り上がるか、柱状になっている。テーブル状の群体と同じように、被覆状においてもサンゴ個体は表面から少し傾いた状態になり、放射状に伸びる傾向がある。



オオスリバチサンゴ *Turbinaria peltata*



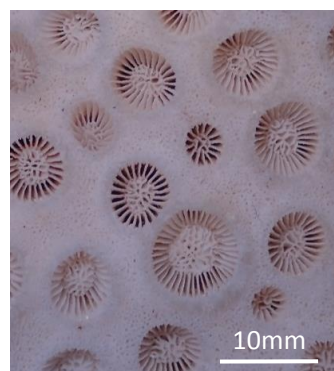
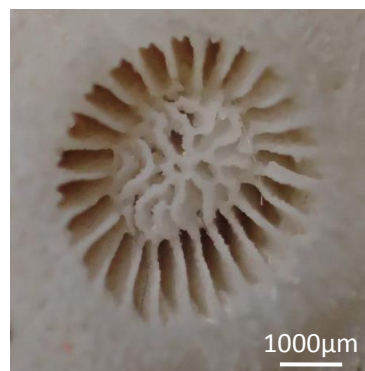
生きているときの特徴

群体は葉状もしくはテーブル状になり、不規則なうねりを伴う群体型になる。群体は直径が1m以上にもなる。ポリプは大きく、昼間でも開いている。ただし、柱状に立ち上がるように成長することもある(次ページ参照)。

・色は淡い緑色～褐色。

ここに注目！

群体型は1m以上にもなり、ポリプも大きい。



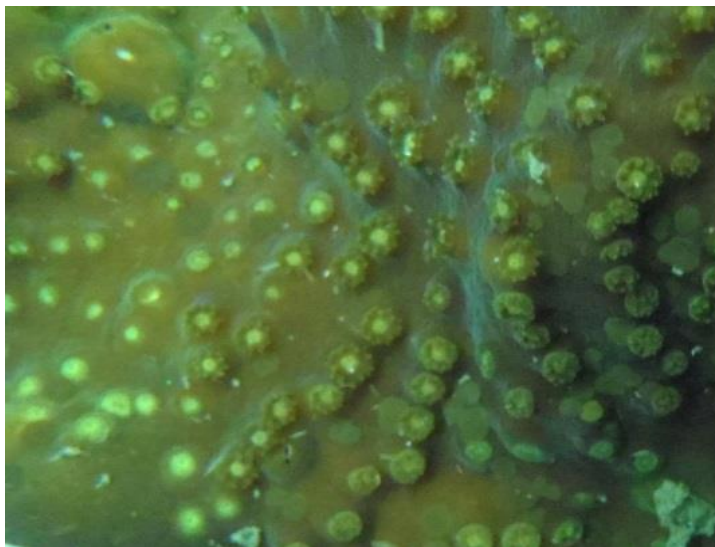
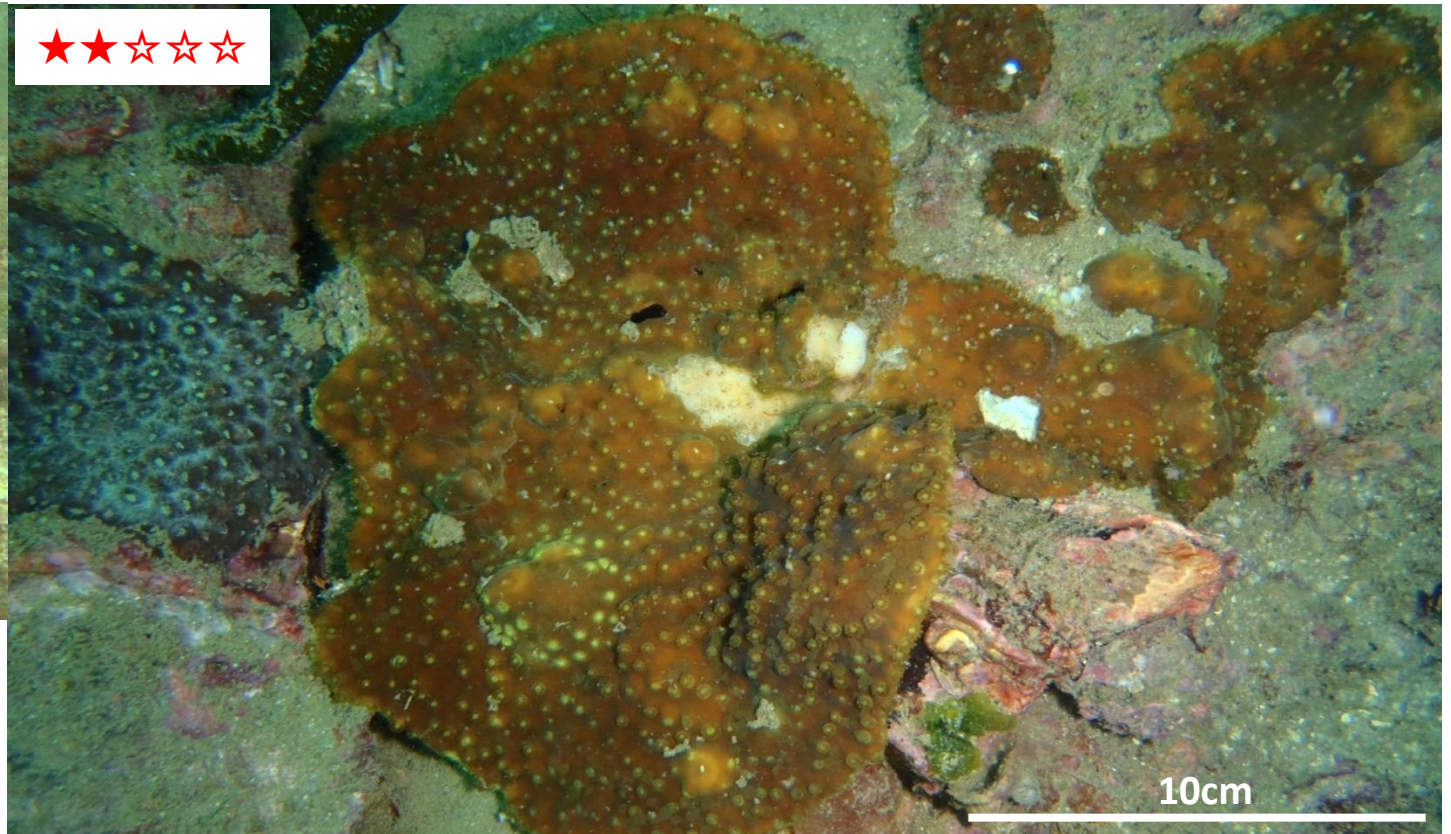
骨格の特徴

サンゴ個体は円形であり、大きさは大小様々である。サンゴ個体の配列は不規則になっており、サンゴ個体間の間隔も不均等である。隔壁の長さの違いはなく、ほぼ全ての隔壁が軸柱に到達する。肋は存在しない。莖の部分は表面からわずかに盛り上がる。軸柱は広く、中心から放射状に線が広がる感じがある。

オオスリバチサンゴのバリエーション



ヨコミゾスリバチサンゴ *Turbinaria reniformis*



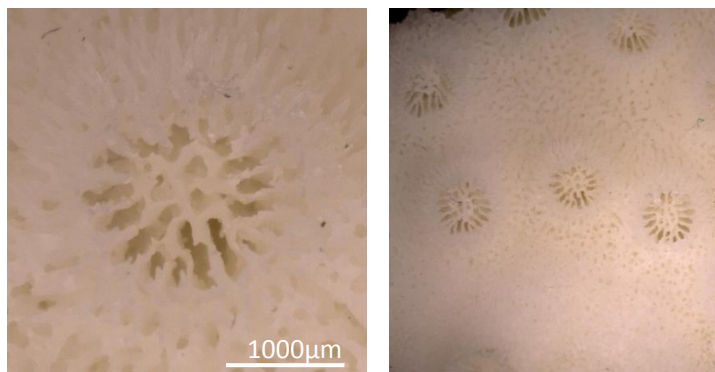
生きているときの特徴

岩場に被さるような被覆状。群体には少し厚みがある。群体の一部では小さなコブ状に盛り上がる部分が見られる。サンゴ個体の突出具合は低い。

- ・色は全体を通して茶色であるが、ポリプの口の内部は黄色。
- ・生息場所は水深5m～15m。

ここに注目！

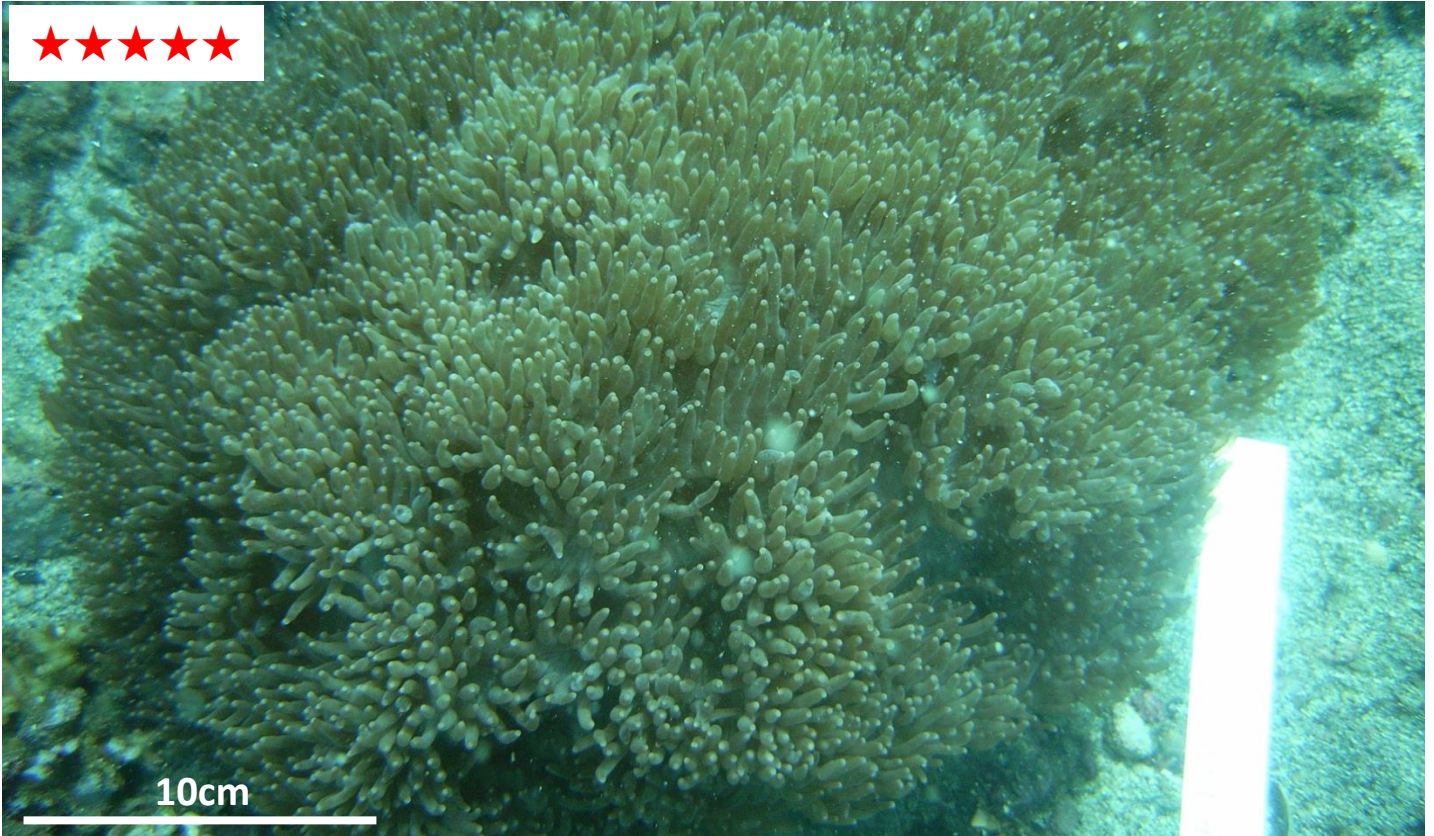
サンゴ個体は円形であるが、筒状のように伸びずに群体から盛り上がるように存在する。口が黄色いのが特徴。



骨格の特徴

サンゴ個体は群体表面からの盛り上がりが低い。突出は円筒状でなく、丘状になる。サンゴ個体の配列は中心部に向かっては個体一つ分の間隔があるが、周縁部と並行する向きには間隔を空けずに密集する。軸柱はパリが集まりスポンジ状に形成される。隔壁の長さには大きな違いはなく、ほぼ一定である。

オオナガレハナサンゴ *Catalaphyllia jardinei*



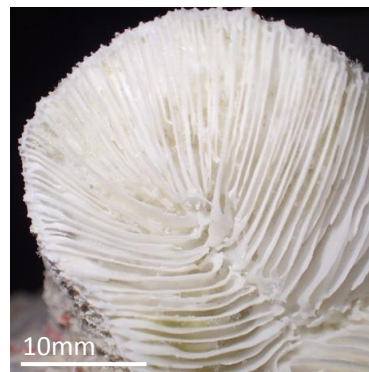
生きているときの特徴

群体は無数の触手に覆われており、サンゴ個体は列になってつながっている。組織の肉が厚みがあり、インゲンチャクに似ているが、組織の下には骨格が存在する。

- ・全体を通して青みがかっている。触手の先端はピンク色～オレンジ色。
- ・生息場所は水深10m～20m。

ここに注目！

サンゴの中でも触手の長さが非常に長く、太い。触手の先端はピンク色。



骨格の特徴

サンゴ個体は連続しており、莖全体に丸みがある。莖の上部は円形や楕円形になっており、外側に開く形になる。隔壁は薄く、枚数は非常に多い。また、ほとんどの隔壁は個体中心付近にまで届く。隔壁と肋は莖壁の上部に少しだけ突出する。肋は存在するがほとんど伸びず、莖壁に沿って落ち込む。ナガレハナサンゴとは骨格が似ているが、この種

ナガレハナサンゴ *Euphyllia ancora*



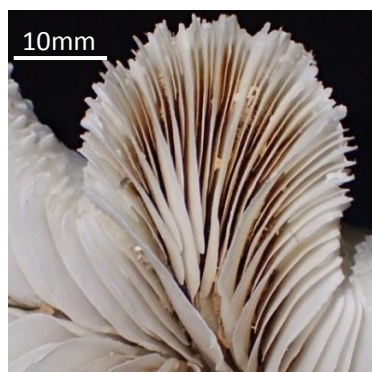
生きているときの特徴

触手を伸ばした状態は半円球のように丸みを帯びた形状になる。触手は日中もずっと伸ばしている。触手の先端は半円形のような、少し変わった形状になる。

- ・群体の色は緑褐色。
- ・生息場所は水深10m～15m。

ここに注目！

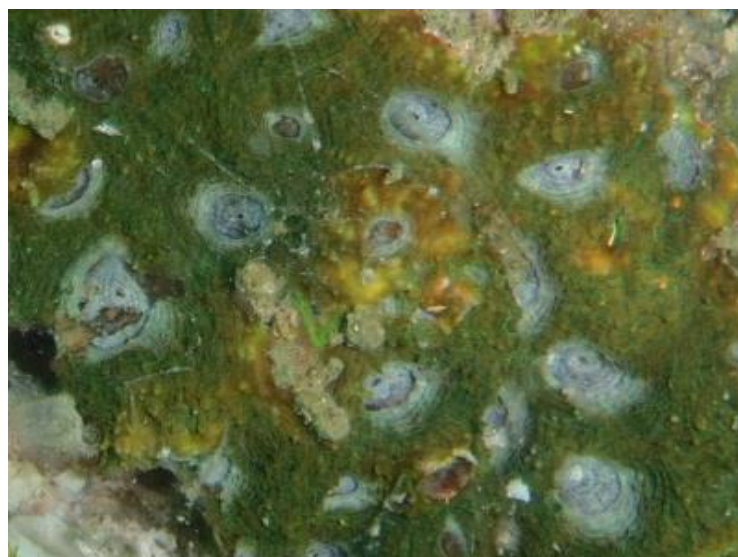
触手の先端が錨(いかり)の形になっている。日中も触手をよく伸ばす。



骨格の特徴

群体全体の形状はオオナガレハナサンゴ *Catalaphyllia jardinei* に非常に似ているが、大きな違いは個体の中心部付近の隔壁がよく発達しており、上向きに伸びている。また、隔壁はサンゴ個体を囲む莖壁よりも上方で、莖壁の外部にある肋と繋がる。また、オオナガレハナサンゴと異なり、大小様々な大きさの隔壁が規則的に配列してある。

ヒメオオトゲキクメイシ *Acanthastrea echinata*



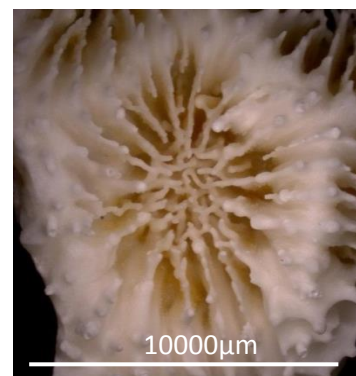
生きているときの特徴

被覆状および準塊状の群体になる。組織の肉は厚みがあるが、サンゴ個体の周縁で鋸歯により組織に膨らみがある。ポリプの口盤の形や大きさは均一ではない。

- ・色は緑色、ポリプの口内は白～灰色。
- ・生息場所は水深5m～15m。

ここに注目！

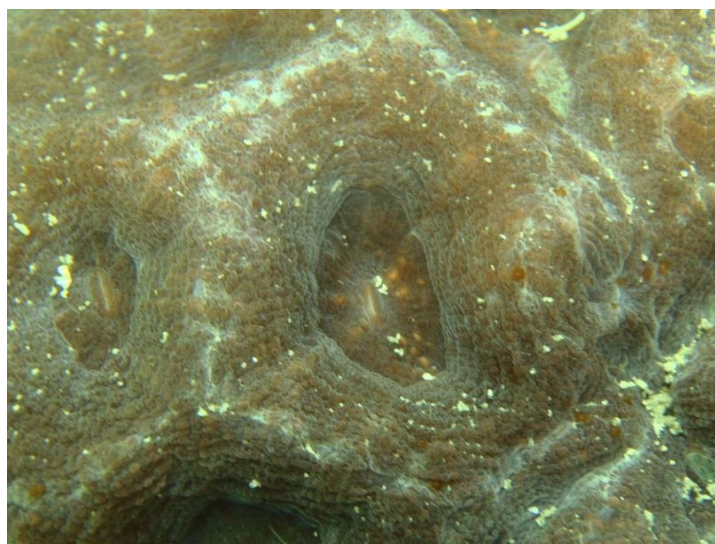
莢の上部に並ぶ鋸歯の突出の様子が確認できる。サンゴ個体の口盤の形や大きさがほぼ均一。



骨格の特徴

サンゴ個体の形状は不規則で、統一性はない。莢の最大直径は1cm前後であり、莢壁は厚く、莢壁上部にも隔壁と鋸歯が発達している。隔壁の厚みや長さは次数に関係せず、ほぼ均一になっており、等間隔で存在する。軸柱はスポンジ状になって集まっており、円形になる。

オオトゲキクメシ *Acanthastrea hillae*



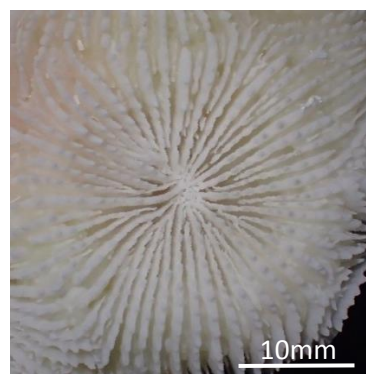
生きているときの特徴

被覆状の群体になる。組織の肉は厚みがあり、莖の長さは3cm以上のものも多く、*Favites*に比べて非常に大きく、莖は浅い。サンゴ個体の中には、口が2つあり、個体が細長くなる場合がある。

- ・色は褐色、個体の境界は白っぽくなる。
- ・生息場所は水深10m～15m。

ここに注目！

*Favites*に比べ、各個体が非常に大きい。他の種に比べて莖が浅い。



骨格特徴

サンゴ個体の形状は全体的に円形で統一されているが、不規則な多角形になる個体もある。莖壁は*Favites*のように明瞭ではなく、盛り上がりで個体間を隔てている。莖壁は存在するが、隔壁が突出しているため、確認しにくい。隔壁上には大量の鋸歯が配置しており、軸柱はスポンジ状になっている。

コハナガタサンゴ *Cynarina lacrymalis*



生きているときの特徴

群体を作らず、単体で成長するサンゴ。日中は触手を伸ばさず、軟組織を膨らませる。そのため、軟組織は非常に肉厚である。しかし、組織は透き通っており、骨格が見えることが多い。

- ・色は透き通るような褐色もしくは淡褐色。
- ・生息場所は水深10m～20m。

ここに注目！

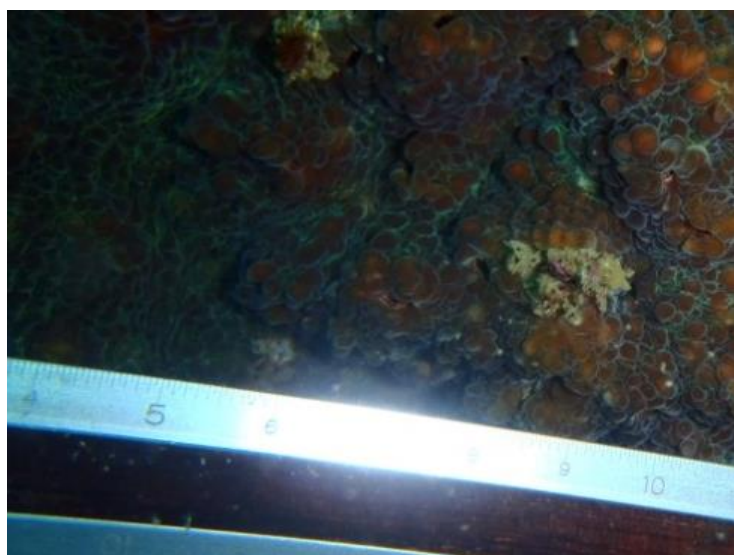
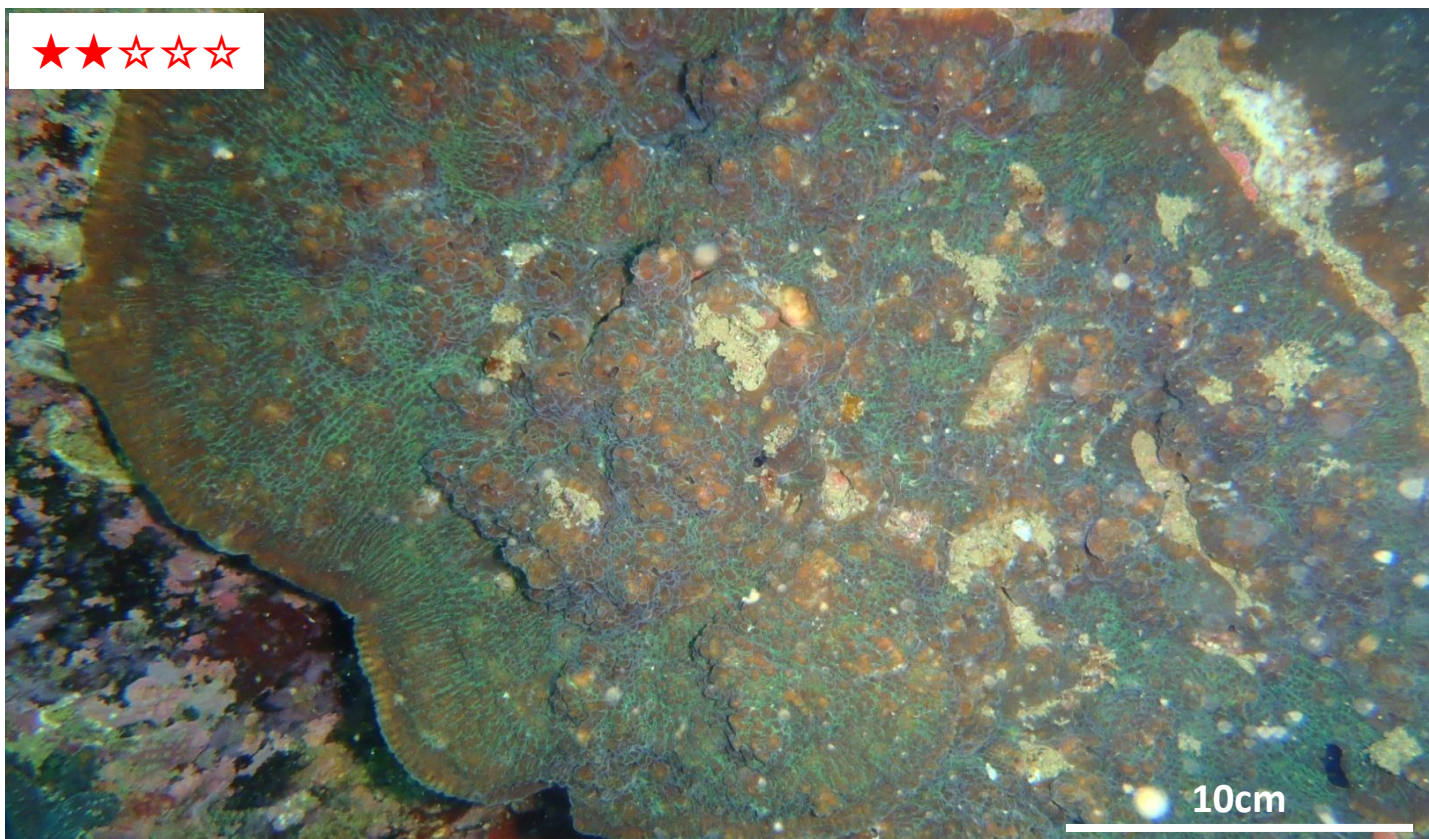
単体性のサンゴで、日中は組織を膨らませる。骨格は真上から見ると円形や楕円形。



骨格特徴

個体は同心円状の様な広がりをもつが、周縁部では、うねりをもつ。隔壁と肋の枚数は非常に多く、きれいに配列している。中心部から伸びる隔壁と肋は莢壁より上部で繋がっている。また、隔壁～肋にかけての上部には大小様々な鋸歯が配列しており、鋸歯は周縁部につれて大きくなっている。軸柱の幅は1cm～2cmと広く、糸状の細長い骨が密集している。

キッカサンゴ *Echinophyllia aspera*



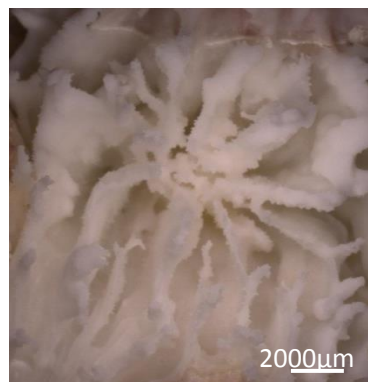
生きているときの特徴

被覆状および葉状の群体になる。部分的に群体が重なる部分が存在する。群体の表面にはサンゴ個体のほかに、サンゴ個体間に小さな突起が数多く存在する。

- ・全体が深緑色と茶色が混在する。
- ・生息場所は水深5m～15m。

ここに注目！

表面には小さな粒状の突起が無数に散在する。周縁部では粒が並び、放射状の線があるように見える。



骨格の特徴

個体は円形や楕円形である。また、莢壁が確認しにくい、もしくは存在しないので、サンゴ個体は共骨から少し突出している。隔壁および肋にはトゲ状の1mm～2mm程度の鋸歯が等間隔に配置している。一方で、群体の裏面には多くなく、1mmにも満たない小さな鋸歯が肋の上部に散在する。

ハナガタサンゴ *Lobophyllia robusta*



生きているときの特徴

被覆状および準塊状の群体である。群体型は全体的に丸みがある。*Symphyllia*と見た目が似ているが、*Symphyllia*に比べて隔壁が口盤に向かって垂直に落ち込むことが多い。組織の肉の膨らみは少なく、生態時でも骨格がわずかに確認できる。

- ・隔壁部分は橙色、口盤は緑～茶色になる。
- ・生息場所は水深5m～20m。

ここに注目！

組織は鋸歯によって持ち上がるため波状にうねる。*Parascolymia*に比べて口盤の範囲が広く、組織の肉が比較的薄い。



骨格の特徴

基本的に個体が2～3個体で連なっており、円形や楕円形になる。*Parascolymia*に似ているが、*Parascolymia*に比べて一次隔壁が比較的薄く、鋸歯も小さい。また、鋸歯は軸柱付近から個体周縁部までほぼ同じ大きさであり、個体の外部に向かってではなく、上方に向かって伸びる。

アマクサオオトゲキクメイシ *Micromussa amakusensis*



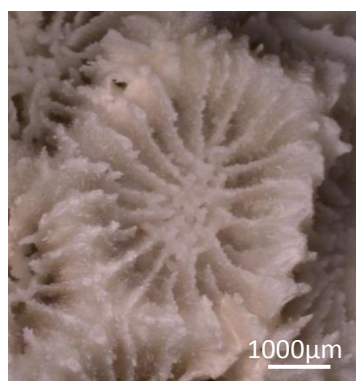
生きているときの特徴

被覆状および準塊状の群体である。組織は比較的多く、キカメノコキクメイシ属 (*Favites*) やコカメノコキクメイシ属 (*Goniastrea*) に比べると、肉厚である。サンゴ個体間は白色っぽくなることが多い。

- ・サンゴ個体の中央部は褐色もしくは淡褐色
- ・生息場所は水深3m～10m。

ここに注目！

莖壁の上部(サンゴ個体間)が白色っぽくなることが多い。もしくは、砂などが堆積することがある。



骨格の特徴

サンゴ個体の形状は不規則で、多角形になるものが多い。個体の最大直径は5mm～8mmで、比較的小さい。骨格ではサンゴ個体どうしは莖壁を共有して隣接している。隔壁は軸柱まで届くものと届かないものが交互に配列している。また、隔壁は莖芯に向かって急斜する。軸柱は密集してスポンジ状になるか、融合することがある。

オニアザミハナガタサンゴ *Parascolymia* aff. *vitiensis*



生きているときの特徴

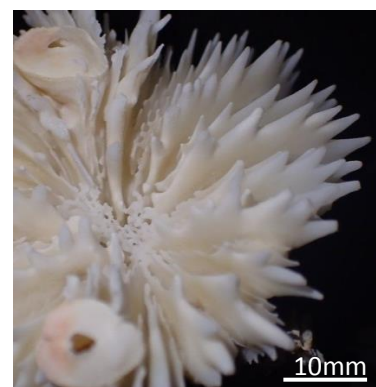
固着性の単体、もしくは2~3つの少数で連続することが多い。*Symphyllia*や*Lobophyllia*のように多数のが連続する群体型にはならない。肉は厚いが、隔壁の鋸歯に合うように組織の表面に棘のような膨らみが形成される。

- ・組織は全体的に緑色になる。
- ・生息場所は水深10m~20m。

※アザミハナガタサンゴ *Parascolymia vitiensis* と混同されて掲載されていた可能性がある。

ここに注目！

個体は底が浅いカップ状になり、周縁部は広がるように開く。組織は肉厚。



骨格の特徴

サンゴ個体は円形や楕円形になる。単体での莖の最大直径は5cm前後である。隔壁は一次隔壁が非常に大きく、二次以降の大きさに変わりはない。全ての隔壁に発達した鋸歯が形状は不規則であるが、ほぼ等間隔で配置している。また、鋸歯は個体の外部に向かって尖っている。肋は隔壁に比べてかなり短く、鋸歯もほとんど存在しない。

ヒロクチダイノウサンゴ *Symphyllia agaricia*



生きているときの特徴

塊状もしくは準塊状の群体になる。組織に厚みがあり、ポリプがつながり畝状になる口盤が広い。

- ・全体的に灰色。
- ・生息場所は水深5m～20m。

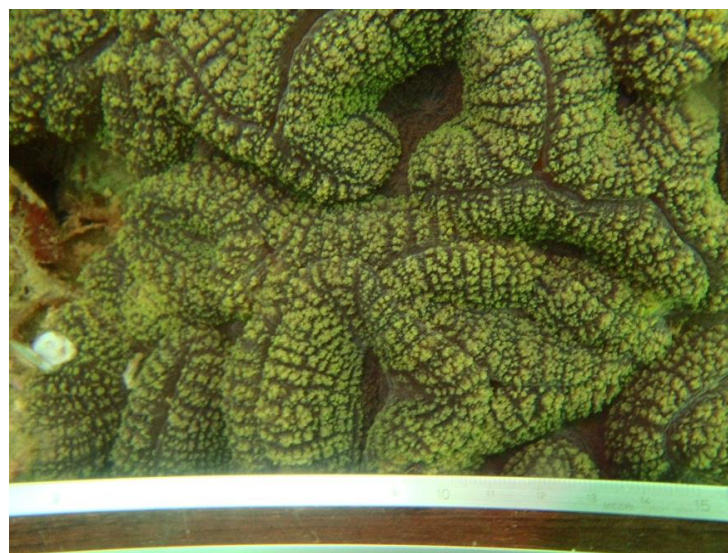
ここに注目！

- ・口盤に、白い口が1列ではなく、2列でなっているのが見える。

骨格の特徴

骨格情報なし。

ダイノウサンゴ *Symphyllia radians*



生きているときの特徴

塊状もしくは準塊状の群体。岩を覆うように成長する。組織は厚みがあり、ポリプどうしが一列に連続してつながり畝状となるが、口盤はあまり見えない。

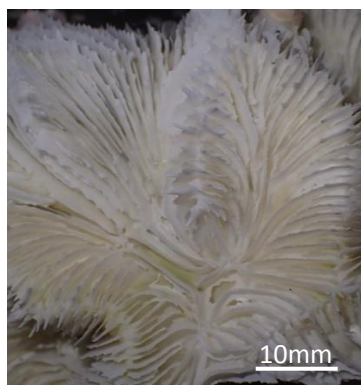
- ・口盤は褐色になり、隔壁部分の色は黄緑色。
- ・生息場所は水深10m～20m。

ここに注目！

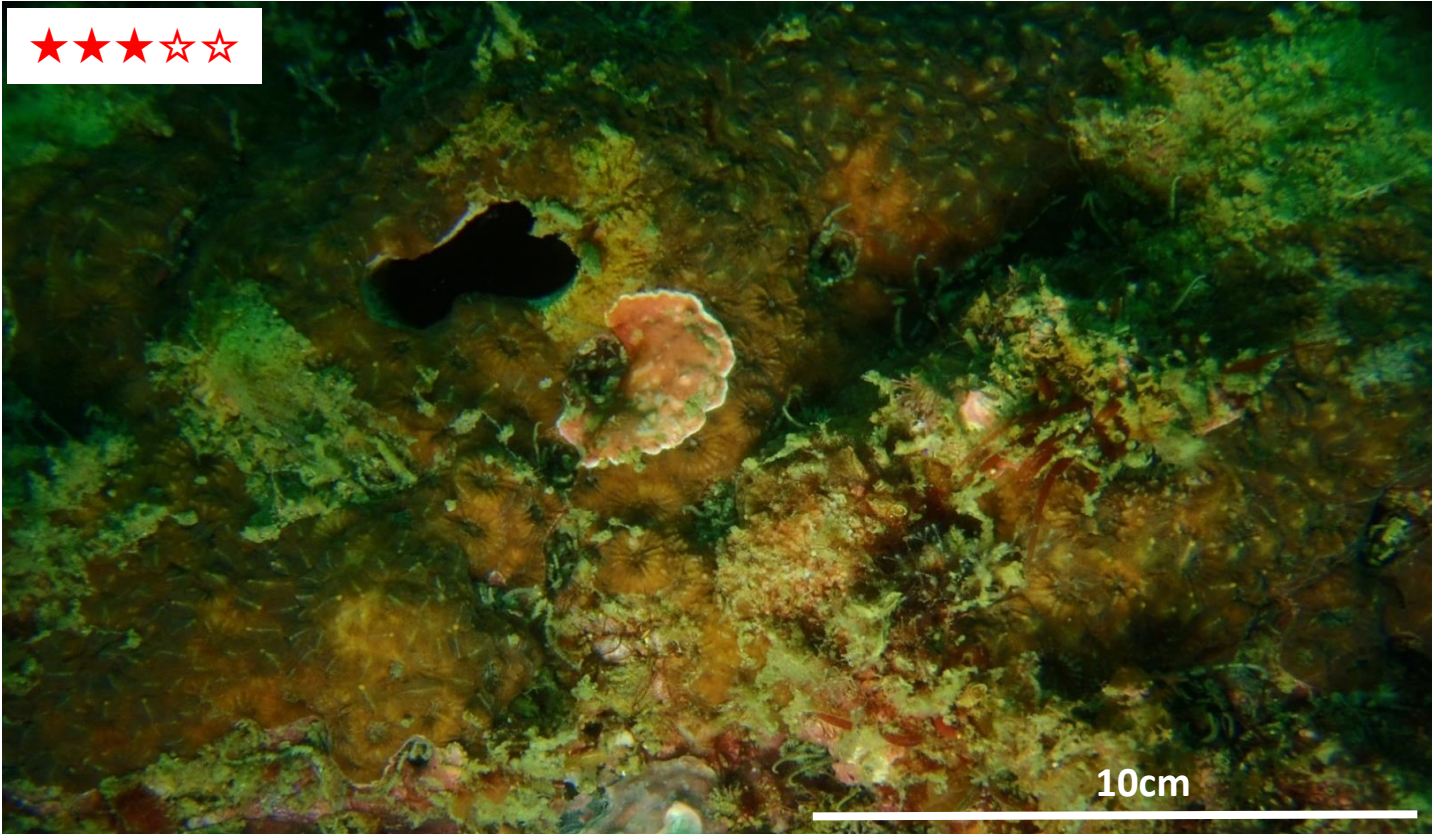
・個体周縁(隔壁～莖の上部)の組織はなめらかで、うねりや凹凸が少ない。

骨格の特徴

サンゴ個体は基本的に隣接する個体と連なっている。*Catalaphyllia*に少し似ているが、連続していないサンゴ個体とも莖壁を介して隣接している。また、隔壁上には鋸歯が複数存在し、莖壁上部に向かってつれて鋸歯は発達している。隔壁は一次隔壁が特に大きく、軸柱に達する。



マルキクメイシ *Astrea curta*



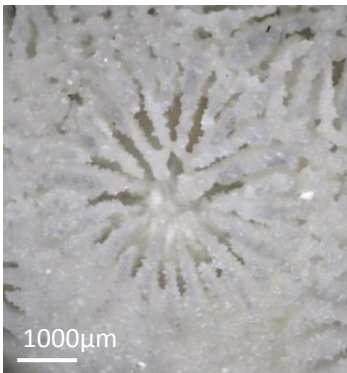
生きているときの特徴

被覆状群体である。個体の形状や配列様式は *Dipsastraea* に似ているが、*Astrea* の特徴として、サンゴ個体の形状は正円形で統一されている。

- ・全体を通して褐色～橙色になる。
- ・生息場所は水深3m～10m。

ここに注目！

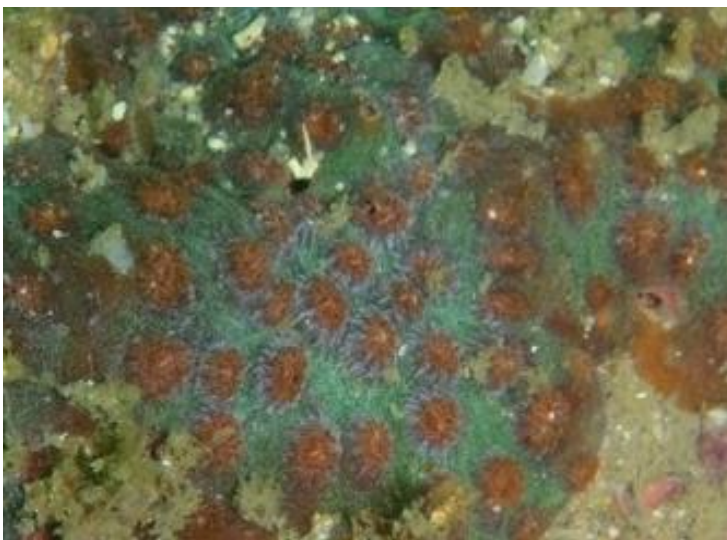
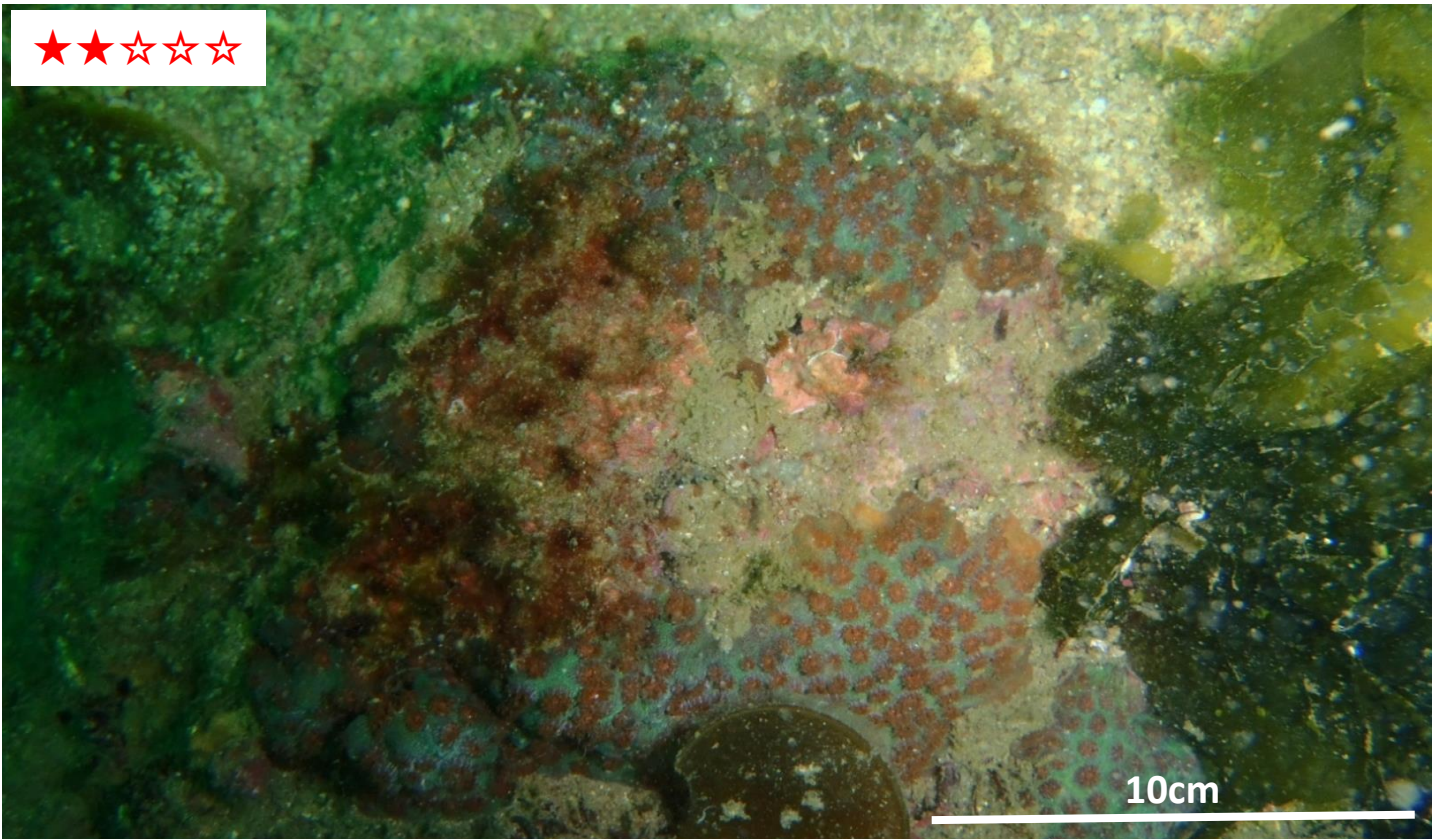
組織の肉は厚みがあり、莢は深い。
Dipsastraea と異なり、基本的にサンゴ個体は正円形。



骨格の特徴

個体は正円形で統一されており、表面から小さく突出する。個体の大きさは不均一で3mm～5mm程度である。隔壁は長いものと短いものが交互に配列している。隔壁と肋は莢壁を超えて繋がっており、放射状にキレイに配列している。軸柱は小さく、目視での確認は難しい。

ニホントゲキクメイシ *Cyphastrea japonica*



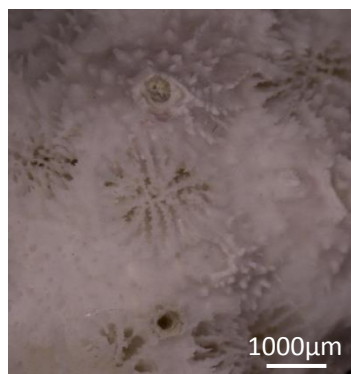
生きているときの特徴

被覆状群体である。ポリプとポリプ周辺部とで色が異なることがある。サンゴ個体は表面から突出しておらず、周縁部は岩場に密着している。サンゴ個体は不規則に配列するが、個体間で隙間が多く見られる。

- ・サンゴ個体部分は褐色～赤褐色、個体間は緑色。
- ・生息場所は水深3m～10m。

ここに注目！

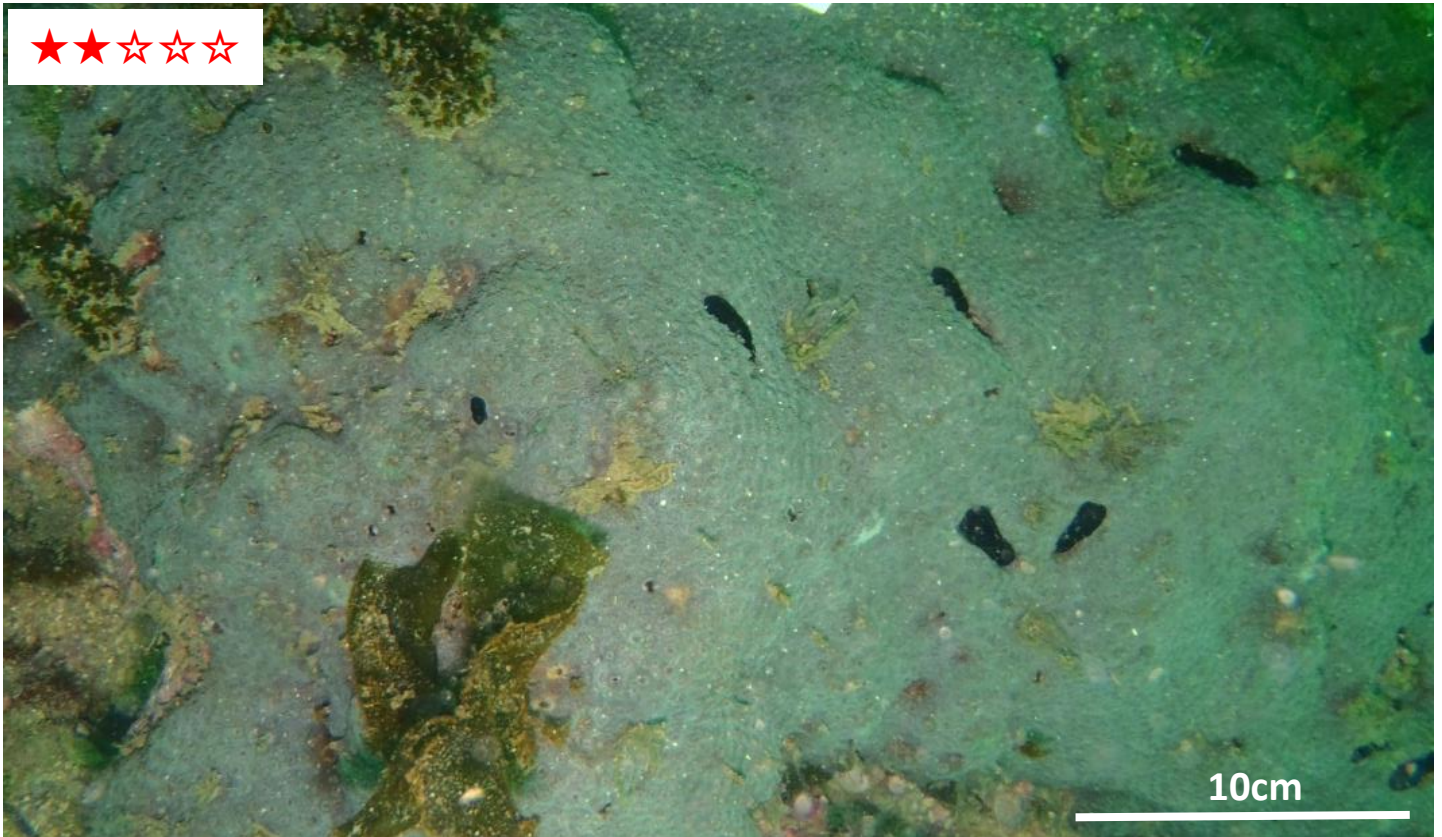
個体は丘状で少し盛り上がり、確認できる。触手はわずかに伸びる。



骨格の特徴

個体は円形～楕円形であるが、ほとんど突出しない。個体の大きさは不均一で1.8mm～2.2mm程度である。個体は不規則に配置してある。隔壁の厚さはほぼ同じであり、隔壁には小さく尖った鋸歯が存在する。肋は極わずかに存在する。サンゴ個体と同程度の大きさのフジツボが多数固着している。

トゲキクメイシ *Cyphastrea microphthalma*



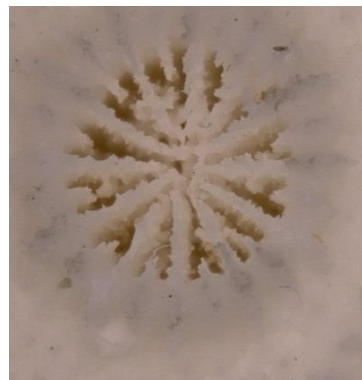
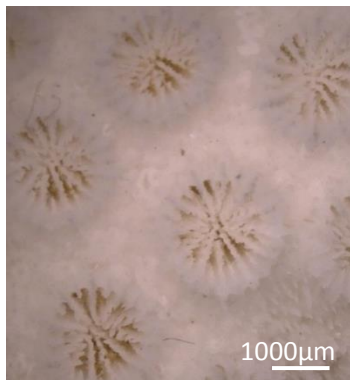
生きているときの特徴

被覆状群体である。群体にうねりはなく、きれいに岩場に被覆する。サンゴ個体は表面からほとんど突出せず、サンゴ個体は個々に独立して存在する。周縁部も岩場と密着している。

- ・全体的に黄緑色になる。
- ・生息場所は水深3m～10m。

ここに注目！

サンゴ個体はほとんど突出しないため確認しにくい。サンゴ個体と個体間の組織の色の違いが少ない。



骨格の特徴

個体は円形であり、個体のサイズは均一で、等間隔に配置する。隔壁の厚さはほぼ同じであり、長さは軸柱付近にまで届く長い隔壁とその半分にも満たない短い隔壁がある。肋は存在せず、共骨の表面には粒状の小さい突起が多数存在する。

キクメイシ *Dipsastraea speciosa*



生きているときの特徴

準塊状もしくは塊状群体である。サンゴ個体の組織は厚みがあり、形は不規則である。口盤は小さく、サンゴ個体間に浅く細い溝が作られる。サンゴ個体の形状は円筒形が多く、各サンゴ個体は独立して存在する。

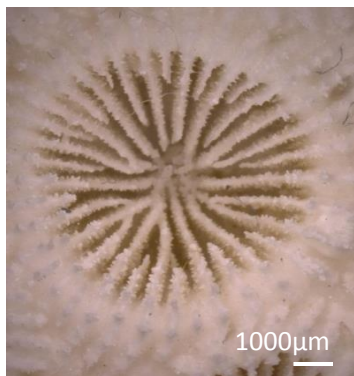
- ・莖は薄い褐色であり、口盤は褐色。
- ・生息場所は水深3m～10m。

ここに注目！

個体の形状は不規則であるが、丸みを帯びているものが多い。個体間には細くて浅い溝が形成される。

骨格の特徴

サンゴ個体は莖壁を共有せずに完全に独立している。個体の形状は生態時と異なり、円形～楕円形になる。莖壁はやや厚みがあり、隔壁・肋は薄い。隔壁の数は比較的多く、軸柱に向かって緩やかに傾斜する。莖の上部付近では、尖った細長い鋸歯が個体内部に向けて発達する。肋は非常に短い。



キクメイシのバリエーション



キクメイシ属の一種 *Dipsastraea* sp.



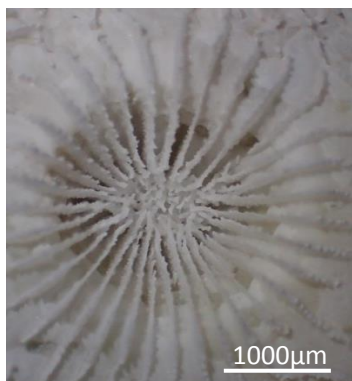
生きているときの特徴

塊状群体であり、きれいな半球状を形成する。サンゴ個体が比較的大きく、ほとんどのサンゴ個体の最大幅は1cmを超える。表面はなだらかでサンゴ個体の突出が少ない。ポリプの口盤および口が少し沈む。

- ・口付近は白色、口盤の外縁では紺色、個体周縁は灰色～茶色。
- ・生息場所は水深10m～15m。

ここに注目！

口付近が口盤外縁より少し窪む。個体は独立しており、個体間には細い溝ができる。



骨格の特徴

サンゴ個体は大きく、莖の幅は10mm～15mmである。個体の形状は円形であり、全ての個体が独立している。莖壁は厚く、共骨から少し盛り上がる。隔壁は薄く、等間隔で配置する。まあた、隔壁は非常に発達しており、軸柱に向かって真っ直ぐに落ち込む。隔壁の上方では非常に小さい鋸歯があり、下方につれて鋸歯は大きくなる。軸柱はスポンジ状で、周囲に杭状葉はない。隣接した個体の肋が融合することは少ない。